沖縄の旅から

壺屋

画　17分会　姉川良男

沖縄県最大の都市那覇は、大平洋戦争で米軍によって壊滅的打撃を被ったが、その名も知られるひめゆり通りに接した壺屋町の一画に壺屋焼の窯元がある。十七世紀に各地の窯場を現在の那覇市壺屋に集めたのが始まり、三百年の歴史を偲ばせる赤瓦屋根や登り窯があり興味をつのらせる。

海見

主人の定年

東ブロック　平田千佐子

稲の穂も深く頭を下げ、台風にもめげず実りの秋を迎えています。

私の主人は、十月二十三月で定年退職となり、三十八年七カ月の長かった炭鉱生活に終わりをつげます。

「長い間ご苦労様でした」と、口で言っても言い尽くせるものではありません。家計を支えるためとはいえ、私が内職から本職になったことで、どうしても家庭のことがおろそかになり、そのことでいろいろと夫婦げんかの種にもなりました。

ふり返えれば、昭和三十三年の春に主人と一緒になり、楽しい家庭を作ろうとつとめ、やがて長男も生まれて希望に燃えている中で三池闘争に突入しました。炭婦協のことは右も左もわからないまま鉢巻きをしめて、よちよち歩きの長男を背負って皆さんの後からついていったこと。次男が生まれた翌年に三川鉱の炭塵大爆発が起こったことなど、いろいろと思い出されます。

あれから二十数年が過ぎましたが、いつの間にか主人は焼酎を飲むようになったのが、ちょっと困ったことです。私は仕事の都合でいつも帰りが遅くなりますし、主人は定年になれば暇ができて、飲む量が増えるのではないかと心配しています。

いま、家も建てていますし、息子たち二人の結婚も目の前に控えていますので、主人にはいつまでも元気で長生きしてもらいたいと、切実に願っているこの頃です。

くらしの歳時記

心筋こうそくに注意を

神山恵三

秋霖があがるといよいよ秋のさわやかな日本晴れの季節となる。あえて体育の日ならずとも、自然に、このさわやかな秋空のもとで運動をしたくなる。それはおおいに結構である。気温も低く、空気も乾燥してくると、体を動かしたとき新陳代謝の高まりによって、体内に発生した熱は夏の暑いときと違って、どんどん外へと出ていくので、運動量に比して心臓などへの負担は少ない。そこで、ついつい、ジョギングも暑かった季節にくらべてファイトが沸いてくる。

だが、ここにひとつの落とし穴がある。首や胸を低温に急にさらすと心臓の囲りの冠状動脈に収縮をおこさせるからである。真冬のような寒さなら〝おお寒い〟といって、体を縮めたり、皮膚をこすったりして、寒さに対して一定の準備を身構える。ところが、低温といっても、その程度ではさわやかで快適なので身構えるどころかのびのびとしています。しかし、体感としてはさわやかでも、冠状動脈にとっては寒冷ショックとなる。もし、動脈につまりが生じている場合には、普段はなんとか血温が通っていても血管の収縮と重なって完全につまってしまい、そこから先に血液が届かなくなり、心筋こうそくにおちいってしまう。

仕事が面白いか、仕事に対する責任感が強いかで休憩もとらず働き続けている働き盛りの人がよくやられる心筋こうそくは、このような気象条件下での急な運動といってもジョギングにかぎらない。階段を上がったり、急に重いものを持ちあげたりといったようなことでも、その引き金になる。ああさわやかな秋空だと感じたら、すぐによし気を付けようとひとこと自分に言い聞かせることが肝要である。

（かみやま・けいぞう＝生気象学者）

ニュース抄録

収入はのびずに貯蓄増

老後の不安深まる

貯蓄増強中央委員会の十月六日発表によると、一世帯の平均貯蓄額は六百八十八万円で、前年より六・五%増。年間手取り収入（平均四百四十万円）の伸び一・六%を大きく上回りました。

貯蓄目的のトップは「病気・災害の備え」七七・二%。次いで「子供の教育費」四三・〇%、「老後の生活費」四二・五%、「土地・建物の購入資金」一九・八%など。

このうち「老後の生活費」は五年前に比べ四・一ポイント伸びており、逆に「土地・建物の購入資金」は五年前の三二・〇%から一二・二ポイントと大幅に下がりました。

国鉄当局がまたも処分

狙いは労組つぶし

国鉄は十月五日、再建監理委員会の「分割・民営化」答申に抗議する八・五スト、原爆投下時刻の汽笛吹鳴などへの参加を理由に、国労、全動労らの組合員に対し、停職三カ月を含む六万四千三百八十七人の処分を通告しました。国鉄は先月にもワッペン闘争参加者の大量処分をおこなったばかり。

いずれも分割・民営化に反対する労組つぶしが狙いです。

両労組は同日「処分は不当かつ不当なものであり、断じて屈するわけにはいかない」「ものいわぬ労働者に仕立てんがための処分のための処分であり、撤回を求める」との声明を発表しました。

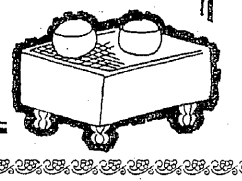
秋の囲碁大会

三池労組囲碁愛好会主催の秋の囲碁大会をひらきます。会員外も遠慮なくご参加ください。

とき　十月二十七日（日）午前九時

ところ　組合事務所

昼食、賞品を準備しています。



10・21国際反戦デー

大牟田地区平和音楽祭

とき　10月20日(日)　PM 5:30

ところ　労働福祉会館大ホール

整理券は組合に

新刊紹介

宮川睦男の生涯「三池労働者と共に」

三池労組の元組合長であった宮川睦男氏が亡くなって満六年余りになりますが、このほど宮川さんと公私ともに近かった人びとが『三池労働者と共に』―宮川睦男の生涯―を編み出版されました。

この本は九月三十日発行、編集は宮川睦男を偲ぶ会で、発行所は労働教育センターです。定価は千五百円。組合事務所、編集部で取り扱っていますので、ぜひ早目にご購入下さい。

三池闘争から25年

原稿募集

情熱を燃やし、激しくたたかわれた『三池闘争』からすでに四半世紀、二十五周年を迎えました。

国際石油資本の日本へのなぐり込みを契機に、石炭産業は構造的危機に直面し〝エネルギー革命〟の名によるスクラップ・アンド・ビルド政策の強行という背景のもとで、資本は人員整理を中心とする全面的合理化を開始し、三池は全国の労働者の支援を得て労働運動史上に特筆されるたたかいに立ち上り、日米安保条約に反対するたたかいとも結んで、果敢にたたかったもののついに勝利することはできませんでした。

その後の三池と炭鉱労働者は、苦難の道程を歩むことになりましたが、社会情勢も労働運動も大きく変貌をとげています。

三池で燃やしたたたかいの焔はなんだったのでしょうか。そしてそれぞれの生きざまは…。

この機会に二十五年目に語る経験と教訓を今日的な視点でとらえかえすために、みなさんのご投稿を募ります。

▼…形式、内容はとくに定めませんが、千二百字以内。

▼…本紙の読者であればどなたでも投稿できます。また、三池闘争にかかわった多くの皆さんからの投稿をお待ちします。